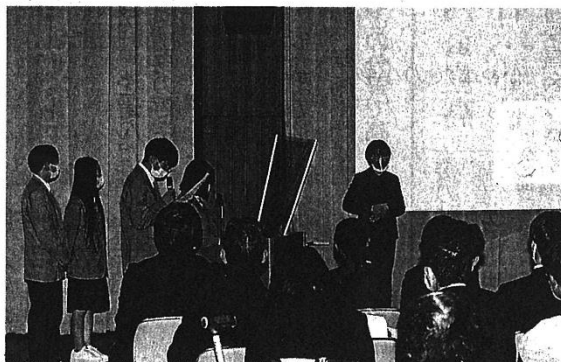


丹波地域の6高校の生徒

## 地元課題の研究成果発表



薬草「トウキ」を使ったソーセージの商品開発について発表する氷上高校の生徒ら。4日、丹波の森公苑。

丹波地域にある県立高校6校の生徒が、県内の大学生や地元住民と地域の課題について研究する「丹波の森若者塾」の合同フォーラムが、丹波の森公苑（丹波市柏原町柏原）であった。住民ら約110人が参加し、生徒らは商開発や地域ボランティアなど、1年間の活動と成果を発表し

た。

同塾は丹波県民局の委託事業として丹波青少年本部が主催した。2022年度は、丹波地域で活動する神戸、関西、関西学院、兵庫医科大が協力、支援した。篠山東雲高校（丹波篠山市福住）のアグリプロダクト類型2年の生徒らは、神戸大が丹波篠山市と連携し

2023年2月7日

神戸新聞

て行う授業「実践農学入門」に参加。田植えや黒枝豆の収穫などを通して課題の解決法を考えた。高校生と大学生、地元農家の共通項を洗い出し、「高校生は大学生と年齢が近く、農家さんとは同じ丹波篠山市に住んでいる。農業経験が多少あることから、大学生と農家

さんを取り持つ潤滑油になれる」とまとめた。

氷上高校の丹の商班は校内で栽培するトウキ葉を活用したソーセージの商品開発について報告。参加者からは「素晴らしい発表。こういう機会を生かし、これからも挑戦を続けて」とエールが送られた。